

# 施策マネジメントシート

作成日 平成 29 年 6 月 20 日

施策	2   2   地域の文化を育み伝える環境づくり		
施策 主管課	文化財課	氏名	伊藤修二
		施策 関係課	

## 1. 現状把握 Plan→Do

### (1) 施策の目的と指標

<b>① 対象</b> (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 ◇歴史・文化遺産 ◇地域住民・市民	<b>③ 対象指標名称</b> (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 国・県・市指定文化財の数 (件) b 包蔵地の箇所数 (箇所) c 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)> (人)
	<b>② 意図</b> (対象をどういう状態に変えるのか) ◇(歴史・文化遺産を)保存・活用し、後世に伝える。 ◇(地域住民・市民が)文化財課管理・所管の文化財・文化施設を通じて地域の文化や歴史に触れる。 [郷土館収蔵品、刊行出版物、指定文化財、その他歴史的・文化的遺産、春日居郷土館、八代郷土館、八田家書院、青楓美術館、釈迦堂遺跡博物館]
<b>④ 成果指標名称</b> (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)	d 市の歴史・文化遺産や地域の文化に触れたことがある市民の割合 (%) e 史跡めぐり、古道めぐりの参加者、古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数 (人) f 文化施設利用者数(郷土館、書院、美術館) (人) g h
<b>⑤ 成果指標設定の考え方</b> ◇市民が地域の文化(財)に親しみを持っているかどうかを聞く。アンケート「市内の歴史・文化遺産を見たり触れたりしたことがあるか」 ◇地域文化財の普及・活用状況を文化財めぐり・古道めぐり・歴史フォーラムなど遺産に直接触れる場に参加する人数で判断する。 ◇地域文化財の普及・活用状況を文化施設を訪れる人の数で判断する。	<b>⑥ 成果指標の取得方法</b> ◇まちづくり基礎調査⇒設問「あなたは、笛吹市の歴史・文化遺産(文化財、神楽などの伝統芸能、道祖神祭などの催事)を見たり参加したりしたことがありますか。」 ◇文化財めぐり・古道めぐり・古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数⇒文化財課把握。 ◇文化施設利用者数⇒文化財課把握。

### (2) 指標・事業費等の実績推移と目標値

			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
			実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	最終目標	
対象指標	a 国・県・市指定文化財の数	件	見込み値	212	213	217	218	219	220	221
		実績値	214	219	217	217	215	215	215	
	b 包蔵地の箇所数	箇所	見込み値	741	741	741	741	741	741	741
			実績値	741	741	741	741	741	741	741
対象指標	c 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)>	人	見込み値	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000
		実績値	72,192	72,145	71,724	71,132	70,749	70,599	70,599	
	d 市の歴史・文化遺産や地域の文化に触れたことがある市民の割合	%	成り行き値	45.0	45.0	47.0	47.0	47.0	47.0	47.0
			目標値	51.0	50.0	50.0	51.0	52.0	53.0	54.0
			実績値	47.4	50.4	45.2	-	-	-	-
成果指標	e 史跡めぐり、古道めぐりの参加者、古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数	人	成り行き値	120	130	140	150	160	170	180
		目標値	150	160	260	270	280	290	300	
	実績値	250	50	482	510	712	702	702		
成果指標	f 文化施設利用者数(郷土館、書院、美術館)	人	成り行き値	9,000	9,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
		目標値	9,400	9,500	5,100	5,200	5,300	5,400	5,500	
	実績値	5,000	5,338	5,967	6,958	7,388	6,998	6,998		
成果指標	g	成り行き値								
		目標値								
	実績値									
成果指標	h	成り行き値								
		目標値								
	実績値									
施策コスト	事務事業数		本	21	21	12	11	11	11	
	事業費 (A)		千円	145,412	295,062	110,124	65,680	48,941	92,477	
	うち一般財源 (A')		千円	63,656	288,601	46,584	42,865	35,218	44,515	
	人件費 (B)		千円	36,931	28,019	17,768	18,319	42,292	44,860	
	トータルコスト (A+B) (C)		千円	182,343	323,081	127,892	83,999	91,233	137,337	0
うち一財 (A'+B) (C')		千円	100,587	316,620	64,352	61,184	77,510	89,375		

### (3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

●後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。 ◇「笛吹市の歴史・文化遺産や地域の伝統文化・芸術を見たり触れたことがある」市民の割合:成り行き値は、前期基本計画のの実績値の平均値とし、目標値は、平成25年度市民の半数程度と設定し、その後、毎年1ポイントの増で設定した。 ◇史跡めぐり、古道めぐりの参加者、古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数:成り行き値は、H23年度を基に毎年10人増で設定。目標値は、H23年度実績を基にH25年度より毎年10人の増で設定した。 ◇文化施設利用者数:成り行き値は、H23・24年度を基に減少傾向で設定した。目標値は、H23年度実績を基にH25年度より毎年100人の増で設定した。
---

### (4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

<b>ア) 住民の役割</b> (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇地域の伝統文化活動に参加したり、後世に伝えていく。 ◇地域の文化遺産に関心を持ったり、大切に保存したりする。	<b>イ) 行政の役割</b> (市・県・国がやるべきこと) ◇歴史・文化遺産の調査・保護・指定・展示を行う。 ◇広報紙への記事掲載、冊子の発行、イベントの開催等を通じて、市民(また市外の人)に笛吹市の歴史的・文化的遺産に関する情報を発信する。 ◇文化施設を通じて市民の歴史的・文化的遺産愛護の心を養い文化財を保護し、後世に伝えていく。
--	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

◇H22年度に笛吹市と山梨県立博物館が、相互の発展・活性化に資することができるよう各種事業(学校教育、生涯学習、文化振興、観光振興等)における連携を目的に協定を結んだ。◇春日居町の寺本庵寺塔跡が拡大し、H21年度に県指定文化財となった。◇平成20年度より甲斐国分寺跡の発掘調査を実施している。◇平成21年度に笛吹市は「甲斐国千年の都」を宣言した。◇平成28年度で史跡甲斐国分寺跡・国分尼寺跡の公有化率は、全体の76.6%に達した。

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

◇議会から、市内の文化財を積極的に活用し、県内外にPRしていくよう求められている。  
◇「文化財めぐり」「古道めぐり」参加者から、開催回数を増やして欲しいという要望が強い。  
◇議会や市民から史跡甲斐国分寺跡・国分尼寺跡の早期整備実現や活用策について求められている。

2. H28年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)

- 目標値より高い実績値だった
- 目標値どおりの実績値だった
- 目標値より低い実績値だった

⇒左記の背景として考えられること

◇市の文化遺産や地域の文化に触れたことのある市民の割合は、H26年度からまちづくり基礎調査を実施しなくなったため評価困難であるが、過去の実績から市民のほぼ半数が日常的に関心を持っており、目標がほぼ達成されていることが考えられる。  
◇史跡めぐり、古道めぐりの参加者、古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数は、H28年度目標値290人に対して実績値702人と高い数値であった。(市の広報やホームページ等を活用した積極的な周知活動の効果によるものと考えられるが、根底には歴史、文化に興味を持つ市民の増加があるものと思われる)  
◇文化施設の利用者数(郷土館、書院、美術館)は、H28年度は、目標値5,400人に対して実績値6,998人と高い数値であった。(市の広報やホームページ等を活用した積極的な周知活動による効果と思われる)

② 時系列比較 (過去3カ年の比較)

- 成果がかなり向上した
- 成果がどちらかと言えば向上した
- 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)
- 成果がどちらかと言えば低下した
- 成果がかなり低下した

⇒左記の背景として考えられること

◇市の文化遺産や地域の文化に触れたことのある市民の割合は、H26年度以降の数値は無いが、向上しているものと考えられる。(史跡めぐり、古道めぐりの参加者が増加しているため、関心を持っており、向上しているものと考えられる。)  
◇史跡めぐり、古道めぐりの参加者、古代史学関係研修会等で史跡を訪れた人数は、H26年度510人、H27年度712人、H28年度702人とH27年度とH28年度の比較では、わずかに減少しているが、比較的高い水準にある。(市の広報やホームページ等を活用した積極的な周知活動の効果によるものと考えられるが、根底には歴史、文化に興味を持つ市民の増加)  
◇文化施設の利用者数(郷土館、書院、美術館)は、H26年度6,958人、H27年度7,388人、H28年度6,998人とH27年度とH28年度の比較では、わずかに減少しているが、比較的高い水準にある。(H28年度は、紅葉の時期の降雪による影響で昨年度より利用者数が減少)

③ 他自治体との成果実績値の比較

- 他自治体と比べてかなり高い成果水準である
- 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である
- 他自治体と比べてほぼ同水準である
- 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である
- 他自治体と比べてかなり低い成果水準である

⇒左記の背景として考えられること

◇市の文化遺産や地域の文化に触れたことのある市民の割合は、近隣市において毎年同様のアンケートを実施していないため比較は行っていない。  
◇史跡めぐり、古道めぐりの参加者、研修会等で史跡を訪れた人数は、笛吹市702人、南ア市8,754人と他市よりかなり低い数値であった。  
◇文化施設利用者数(郷土館、書院、美術館)は、笛吹市6,998人、南ア市17,395人と低い数値であった。  
●南ア市には史跡将棋頭、ふるさと文化伝承館、重文安藤家住宅、春仙美術館がある。  
●笛吹市には史跡甲斐国分寺跡・国分尼寺跡、春日居郷土館・小川正子記念館、八代郷土館、八田御朱印屋敷・八田家書院、青楓美術館、県立博物館、組合立釈迦堂遺跡博物館があり、他に多くの古社寺もあって、市民が歴史的・文化的遺産に触れる機会に恵まれている。  
●南ア市は、市HPや電子媒体、小学校や地域コミュニティとの連携等による地域学習会や教育・普及活動が笛吹市よりもかなり進んでいる。  
●笛吹市は、H26年度から学校など、市民に向けたPRを強化しているが、まだ学校や地域等との連携が一部に留まっており、市内全域に浸透していない。

自治体名⇒ 南アルプス市

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒	笛吹市の人口	(単位)	26年度	27年度	28年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D)	(1枚目の c )	人	71,132	70,749	70,599	◇H28年度は埋蔵文化財発掘調査委託事業、文化財保護事業が減ったが、史跡の公有化を再開したことにより、史跡甲斐国分寺跡整備事業が増えたため、事業費が増加している。 ◇人件費は若干増加しているが、人件費率は、H27年度46.36%に対し、H28年度32.65%と効率性は向上している。
*対象1単位当たり事業費	(1枚目 A / D)	円	923	692	1,310	
*対象1単位当たり人件費	(1枚目 B / D)	円	258	598	635	
*対象1単位当たり一ータルコスト	(1枚目 C / D)	円	1,181	1,290	1,945	

(3)施策の現状と課題の総括

H28年度は、文化財活用事業として「芦川散策会」や「古道めぐり」を行った。「芦川散策会」では篤篤地区にある免造民家や石造物などの歴史的風景を訪ねた。「古道めぐり」では石和地区の市川道とその周辺を散策し、市民に身近な歴史的・文化的遺産に親しんでもらった。また、八田家書院の雛飾り・武者飾り、博物館・美術館での特別展示や様々な講座を開催し、市民が歴史・文化に親しむ機会を設けた。  
(今後の課題)  
◇市内にはたくさん歴史的・文化的遺産が点在しており、これらのネットワーク化(マップ作成や紹介パンフ)が求められている。  
◇施策の成果向上には市民が質の高い文化財に触れる機会を設けて行く必要がある。そのためには、豊富な歴史的・文化的遺産を保存するだけでなく、多様な広報(冊子・パンフレット・CATV・AR技術等)の導入など、手段を用い、学校教育に活かすなど、市民に知ってもらうための教育普及活動への取り組みが重要である。  
◇今後、笛吹市博物館(春日居郷土館)に学芸員を常時配置し、博物館活動を充実させていく必要がある。  
◇地域の伝統行事を守り、後世に伝えていくため、団体に対して後継者を育成するための助成・指導が必要である。

3.後期基本計画の取り組み方針(30年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

◇市民に笛吹市の文化財について知ってもらうためには、多面的な事業を通じて周知し、興味を持ってもらう。印刷物はもちろんのこと、実物を自分の目で見てもらうことは強い印象を与えるので、文化財めぐり・古道めぐりや現地説明会を積極的に開催する。  
◇市立博物館・美術館(春日居郷土館・八代郷土館・青楓美術館)及び八田家書院の活動を充実させ、教育普及活動に取り組むと共に、市内の小中学生を対象に配布した無料バスポート(フッキーバス)の有効活用を促し、入館者増を図る。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇市民に笛吹市の文化財について知ってもらう、興味を持ってもらうため、多面的なメニューの提供と文化財めぐりや現地説明会、出前教室の回数を増やす。  
◇市立博物館(春日居郷土館)に学芸員を常時配置し、博物館活動を充実させる。  
◇無料バスポート(フッキーバス)の活用を促進する。  
◇HPや電子媒体等を積極的に活用し、市民に情報発信する。